

## ○学生ボランティア活動

## 被災地に学んだ挑戦心

教育地域科学部地域科学課程2年 滝波肖太郎

3月11日に、日本観測史上最大のM9.0の地震が発生しました。死者行方不明者は2万人以上、東北地方の太平洋側沿岸部は津波により壊滅的な被害を受けました。

私はボランティアに参加してから、いろいろな事に挑戦するようになりました。現地に行って無差別にたくさんの人が亡くなっている様子を見て、自分は生きている間はやれるだけのことをやろうと思ったからです。

私がこの東日本大震災のボランティアに最初に参加したのは、地震発生から10日後の事で主に福井県中から運ばれてくる物資を現地に向かうトラックに運搬するというボランティアを行いました。ここで運んだ物資は福島・岩手に運搬されたそうです。

しかしどうしても被災地に行って被災者の人たちのそばで力になりたいと思い、6月の初めに福井県の派遣するボランティアに参加して岩手県の陸前高田市で瓦礫撤去の活動をすることにしました。現地の状況はひどく、水道・ガス・電気もまだ完全に復旧していないような状況でした。我々は普門寺というお寺に宿泊させてもらいました。ここには、400体程度の身元の分からないご遺骨が安置されており、心が引き締まる思いがしました。

その後10月に、災害ボランティアフォーラム委員会に参加するようになり、僕は福井大学の代表として参加するようになりました。ここの委員会には福井県の主な災害ボランティアグループや福島県からの避難民の方、各学校機関の代表が集まっています。この委員会の中で、僕はフォーラムを運営する50名弱のボランティアの統括になりました。今までのボランティアと違って頭脳労働が多い活動でした。この委員会が企画したフォーラムは、12月12日に仁愛女子短期大学で開催されて500名以上の人たちが今回の地震の反省点や良かった点を議論していきました。

そしてその1週間後に岩手県陸前高田市の避難所の一つになっている広田小学校にサンタに扮してクリスマスプレゼントを届けるというボランティアに参加しました。このボランティアは12月の半ばに行ったので、現地はとても寒く-5℃しかありませんでした。小学校で子どもたちにプレゼントを配り、福井県から持ってきたもち米でお餅をついて現地の人たちに配りました。

今年に入ってから再び災害ボランティアフォーラム委員会に呼ばれ、3月10日に開催されるボランティアフォーラムの統括になったので、これからはその活動を中心としてやっていきます。また福島県から福井県に避難される方々を支援するボランティアもやっているのものでそちらにも参加して行く予定です。